

1 平成30年度の研究の概要について

(1) 研究領域 「主体的・対話的で深い学び」「学校保健」

(2) 研究主題

主体的・協働的に学ぶ児童の育成
～アクティブ・ラーニングの3つの視点を踏まえた授業改善～

(3) 主な教科 国語・算数・体育（保健）

2 目指す児童像

自ら問いを見つけ、立場を決めて考えることができる

仲間との関わり合いの中で、自己の変容を感じ取ることができる

3 昨年度までの研修

6年 国語 「展開を考えて書こう」

3年 国語 「おにたマップを使って物語を紹介しよう」

2年 国語 「作り方を説明しよう」

☆視点と主な手立て

主体的な学びの実現 . . . 相手意識をもたせる工夫、見通しをもたせる工夫、めあての工夫、授業のしかけの工夫、見通しをもたせる工夫、モデル提示の工夫

対話的な学びの実現 . . . 説明メモの工夫、チェックシートの活用、交流の工夫、心情曲線を用いたワークシートの工夫

深い学びの実現 . . . 思考を再構築する時間の設定、振り返りの工夫、自己決定する時間の工夫
振り返りの工夫

4 今年度の研修

☆図1のようにアクティブ・ラーニングの3つの視点を捉え、資質・能力を育てるためには、児童が見方・考え方を働かせること（深い学び）が必要である。そこで、見方・考え方を働かせることを促す授業実践を行うために、田中博之先生（早稲田大学教職大学院教授）の15の技法（図2）を活用し、深い学びの実現を目指す。

図1

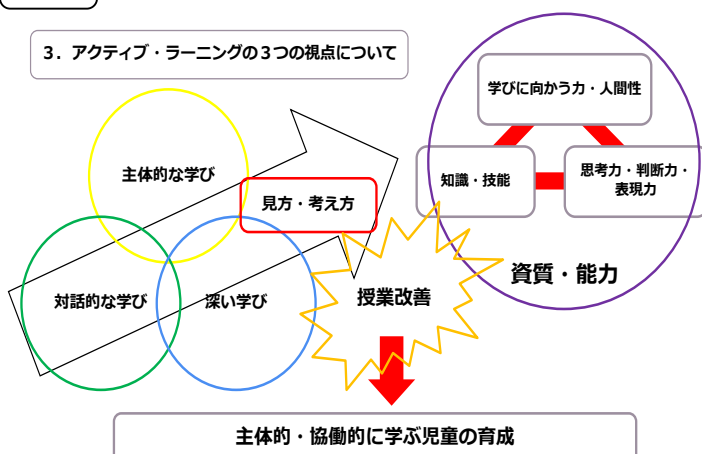


図2

